

登録コード	E6205900	開講年度	2026			
授業科目	発達障害教育総論				担当教員	下山 真衣
英文授業名	Introduction to Developmental Disabilities				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・3時限	対象学生
講義室	教育E504講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンベンション	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	発達障害のある子どもの心理、教育、指導法について理解し、このような子どもたちを取り巻く現代的な教育課題について検討し、共生社会にある教育の使命や倫理を説明できる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	発達障害のある子どもへの教育を行う上で必要とされる心理、教育家庭、指導法に関する基本的な知識と技能について説明できる。
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	発達障害のある子どもたちを取り巻く現代的な教育課題から端を発し、子どもたちの心理、教育、指導法について基本的な知識を学び、子どもたちの教育的ニーズや通常の学級、通級指導教室、特別支援学級での学びについて検討を深めていく。また、発達障害のある子どもたちの二次障害について学び、家庭、医療、福祉との連携の必要性について学び、子どもたちへの教育、支援を自ら検討できる力を培う。					
(5)授業計画	第1回：発達障害のある子どもを取り巻く教育的課題 第2回：自閉スペクトラム症（1）定義と疫学（心理・生理・病理） 第3回：自閉スペクトラム症（2）子どもの認知発達、社会性発達 第4回：自閉スペクトラム症（3）子どものコミュニケーション 第5回：自閉スペクトラム症（4）地域の学校での指導法 第6回：注意欠如多動症（1）定義と疫学（心理・生理・病理） 第7回：注意欠如多動症（2）子どもの認知発達、社会性発達 第8回：注意欠如多動症（3）地域の学校での指導法 第9回：限局性学習症（1）定義と疫学（心理・生理・病理） 第10回：限局性学習症（2）子どもの認知発達、社会性発達 第11回：限局性学習症（3）地域の学校での指導法 第12回：発達障害のある子どもの教育課程とカリキュラムマネジメント 第13回：発達障害のある子どもの自立活動と授業設計 第14回：家庭、医療、福祉との連携、特別支援教育のセンター的機能 授業アンケートの実施 定期試験 ＜欠席について＞ 教育実習により授業を欠席した場合は、授業の動画を視聴することで補講とします。					
(6)成績評価の方法	成績評価の考え方は以下の通りです。 ・授業の達成目標の到達度を計る毎回のリフレクション50点 ・授業の達成目標の到達度を計る期末試験50点					
(7)成績評価の基準	・合格水準（授業の達成目標への達成度において許容範囲水準）からみて、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の3つの領域と教育課程、指導法の目標について概ね達成できれいれば「合格水準にある（可）」、平均よりもやや上になれば「やや上にある（良）」、平均よりもかなり上になれば「かなり上にある（優）」、90点以上であれば「卓越している（秀）」 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80%以上 優、79-70%以上 良、69-60%以上 可、59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	・毎回の授業の終わりに次回までに必要な学びの範囲について説明するので、その内容について予習してくる。なお本科目は、授業と授業時間外での自学自習とを合わせて90時間程度の学習を原則とする。					
(9)履修上の注意	グループワークによるディスカッションを行いながら授業を行います。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	質問・相談等について、必要に応じて対応します。 メールアドレス：mshimoyama@shinshu-u.ac.jp（下山まで）					
【教科書】	特になし。必要に応じて資料を配布する。					
【参考文献】	・『発達障害 病態から支援まで』大阪大学大学院連合小児発達学研究科監修 朝倉書店 ISBN 4254301251 ・『よくわかる発達障害第2版』小野次朗 ミネルヴァ書房 ISBN 4623057364					